

■市川團十郎(4世) 歌舞伎役者。思わぬ形で團十郎を襲名、芸能の世界では初の研究会を組織し、後進の指導に尽力。

いちかわだんじゅうろう

冥途の飛脚・1711＝

芝居茶屋の和泉屋勘十郎の次男に生まれる。実は二代目市川團十郎の実子ともいわれている。幼名徳藏。

梨園に入ることが生れたときから運命づけられていたようで、

絵島事件・・・1714＝ 3歳：「稽古始め」の歳になると、さっそく二代目團十郎の高弟の初代松本幸四郎の養子になり、

徳川吉宗將軍1716＝ 5歳：

洋書輸入解禁1720＝ 9歳：_松本七藏の名で初舞台を踏む。このときは女形を勤めたといわれ、

その後もしばらくは女形や若衆役を勤めたが、後に立役に転じている。

梅岩心学始・1729＝18歳：

享保大飢饉・1732＝21歳：

昆陽蕃蕃考・1735＝24歳：二代目團十郎が養子の市川升五郎に三代目市川團十郎を襲名させて隠居し、二代目市川海老藏を名乗った年、_養父が死去、名跡を継いで二代目松本幸四郎を襲名。

・・・1738＝27歳：

ワシ船出没始 1739＝28歳：*「景清」(歌舞伎十八番)を初演、それまでの単純明快な荒事に陰鬱な悪の味を加えることで、新しい歌舞伎の演技を創造し、当たり役となったほか、「曾我物」の工藤、「忠臣蔵物」の高師直など、家の芸である荒事よりも実悪を得意とし、代々の團十郎のなかでも異彩を放った上、女形もよくして芸域が広がった。

・・・1741＝30歳：大坂で「毛抜」を初演していた三代目團十郎が突然病に倒れて、

公事方御定書1742＝31歳：早世してしまい、後継者を失った二代目海老藏は、老躯に鞭打って舞台上に立ち続け、

義経千本桜・1747＝36歳：

徳川吉宗没・1751＝40歳：

山脇東洋解剖1754＝43歳：体力の限界となった二代目海老藏の養子となり、*四代目市川團十郎を襲名。

・・・1756＝45歳：

この一連の出来事は、養子を取る方が二度目なら、養子に行く方も二度目という数奇な養子縁組で、しかも芝居茶屋の次男坊が三段跳びで江戸歌舞伎の頂点市川宗家に収まるという栄転譚でもあり、ただでさえ出世ばなしを好んだ江戸っ子は後々までこれを語り継いだという。

大岡忠光没・1760＝49歳：

また一方で四代目は男色にふけり、別れた元愛人の若衆に陰間茶屋を経営させていた。こうしたさまざまな口承がやがて「團十郎伝説」となり、それが「市川團十郎」の名を江戸歌舞伎のなかでも特別な地位に押し上げてゆく一つの要因ともなった。

蘭銭初輸入・1765＝54歳：

・・・1770＝59歳：*実子の三代目幸四郎に五代目團十郎を譲り、自らは幸四郎に復し、

田沼意次老中1772＝61歳：_三代目市川海老藏と改名。

解体新書・・・1774＝63歳：

雨月物語刊・1776＝65歳：_市村座の千秋楽での松王丸を演出を最後に引退し、深川木場の自宅に、芸能の世界では初となる演技の研究会(修行講)を発足させ、後進の指導に力を注いで、

ワシ船蝦夷来 1778＝67歳：_没した。